

6 大都市周辺の農業と山間部の過疎問題

○食料の大消費地を支える農業

関東平野の台地：早くから畑作地が広がり、(近郊農業)が発展

→都市化に伴い住宅地が拡大し、近郊農業は市街地の外側の地域へ移る

茨城県・千葉県：野菜の生産量が高く、鶏卵の生産も盛ん

栃木県：いちごの生産量が高く、乳牛の飼育も盛ん

関東地方の道路網の整備：保冷トラックによる長距離輸送が可能

→消費地から離れた地域で農産物を生産

碓氷村(群馬県)：夏でも涼しい高原の気候を生かし、キャベツの生産が盛ん

房総半島や三浦半島の南部：冬でも温暖なことから、一年中花を栽培

○山間部の役割と地域の再生

関東地方の環境：山間部を中心に豊かな自然がみられる

→箱根や尾瀬・日光・奥多摩など、観光や登山などで多くの人々が訪れる

関東地方の山間部：農林業が衰退して人口が流出、高齢化と(過疎)が問題

上野村(群馬県)：若い世代の流出により、人口減少と少子化・高齢化が進む

→特産品の開発や働き口の確保などの取り組みを行う

→(Uターン)や(Iターン)による移住者が増加

※(Uターン)とは、大都市圏以外の出身者が大都市圏に移住し、出身地またはその近くに戻ることを。

(Iターン)とは、大都市圏出身者が大都市圏以外の地域に移り住むこと。